神谷（白樺学園）1000制し2冠

渡部（池田）男子5000初優勝
女子1000で門（白樺）が3位

全国高校スケートアイスホッケー

第58回全国高校スケート競技選手権大会（冬季インターハイ）競技第2日は20日、岐阜県恵那市でスピード、広島県広島市でフィギュアの競技を行った。スピードは午前に女子千㍍を行い、1分22秒52をマークした神谷衣理那（白樺学園2年）が前日の五百㍍に続いて制し、2004年の辻麻希（岸本医科学研究所―白樺学園高出）以来5年ぶりに女子短距離2冠を飾った。門奈津実（同）が1分23秒16で3位に入った。19日はスピードとフィギュアが行われ、スピードの女子五百㍍で神谷が自身の持つ大会記録を更新する81秒29（2回合計）をマークし、同種目では98、99年の大菅小百合（大和ハウス工業―白樺学園高出）以来10年ぶりとなる連覇を達成。押切美沙紀（駒大苫小牧1年―中札内中出）は83秒35で3位、永田希絵（帯南商1年）は84秒14で6位だった。男子五千㍍は渡部知也（池田2年）がリンク新記録の7分2秒78で初優勝を飾った。同五百㍍は池田大輝（白樺学園3年）が76秒70で7位だった。フィギュアはショートプログラムによる男女予選を行い、女子予選Aの長谷川圓（白樺学園1年）が10位で決勝に進出を決めた。（高橋宏幸、金野和彦）

【女子千㍍】神谷衣理那（白樺学園）はバックストレートで快走し、同走の宮﨑麻衣（嬬恋）を大幅に引き離す

重圧に打ち勝つ
成長実感、充実の滑り

昨年衝撃的な高校デビューを飾った神谷衣理那（白樺学園2年）がスケールアップした姿を見せた。前日の五百㍍で尊敬する大先輩・大菅小百合（大和ハウス工業―白樺学園高出）以来の連覇を成し遂げ、女子千㍍も1分22秒52で制し5年ぶりの短距離2冠を達成。全日本ジュニアで敗れた悔しさを晴らす充実の大会となった。「狙っていた2冠ができてうれしかった」と神谷は満面の笑みを浮かべた。

五百㍍、千㍍ともに「だんだんスピードがついてきた」というスタートが好調で入りのラップはどちらも今季最高。千㍍は大会記録には届かなかったが唯一の22秒台、五百㍍でも2回とも40秒台をただ一人そろえ実力を見せつけた。昨年の五百㍍は1年生として優勝を意識せず伸び伸びと滑った結果だが、今年は前年覇者というプレッシャーとも戦い、それに打ち勝ってつかんだ栄冠。「プレッシャーの中で勝つことができ、今年の方がうれしい」と喜びもひとしおだった。

昨年に比べ「自分でも成長できていると思う」と神谷。課題としてきたコーナーでの加速などの技術面に加え、持久力や精神面の成長を感じている。「癖がないのでまだ伸びる要素はある」と遠藤倫哉監督。進化を続ける17歳は「高校ではトップになれた。次はシニアと戦える選手になりたい」とステップアップを誓っていた。

遠藤監督「まだ伸びる要素ある」

【女子千㍍】五百㍍に続き2冠を達成した神谷衣理那は表彰台でVサイン。右は3位の門奈津実

積極果敢 目標つかむ
渡部 悪天はねのけ会心レース

男子五千㍍は1週間前の全日本ジュニアで同種目を制した渡部知也（池田2年）が最後までスピードを落とさず力走しリンク新記録の7分2秒78をマーク、昨年あと一歩で逃した優勝をついにつかんだ。渡部は「ゴールするまで全然結果がわからなかったけど、リンクレコードが出たのでうれしかった」と満足そうに話した。

中学生までは中距離の選手で、五千㍍は始めてまだ2年。昨年は長距離の怖さを覚え、無意識のうちに抑えた滑りをしてしまう傾向が見られたが、全日本ジュニアで「最初に抑えるよりは突っ込んでいってどこまで踏ん張れるか勝負した方がタイムが出ると気付いた」と長距離の滑り方のこつをつかんだ。今回は序盤から積極的に攻めるレースで今季の屋外ベストとなる会心の滑りを見せた。

木幡伸二監督は「積極的に攻めていったのがすごく良かった。気持ちの入ったレースをしていた」と賛辞を送る。この日は天候が荒れ、五千㍍は土砂降りの雨でガタガタになったリンクでのレースを強いられた選手もおり「リンク状態が悪い中で頑張る選手の姿を見たことも最後の粘りにつながったのでは」と木幡監督は分析する。

次は連覇の懸かる千五百㍍。全日本ジュニアで敗れた山中大地（長野工業高専3年）との再戦となり、渡部は「チャレンジャーとして、絶対に気持ちで負けないように頑張りたい」と張り切っていた。

男子五千㍍をリンク新で初優勝した渡部知也

【男子五千㍍】持ち前の粘り強さを見せ、最終のコーナーを回る渡部知也（池田）

最低限の目標達成
男子五百㍍で7位の池田大輝（白樺学園3年）の話

順位は悔いが残るが、2本目は最後まで落ち着いて滑れて、今シーズンでも一番いいレースができたので次につながる。父との約束で、今回入賞できなかったら大学進学（目大）をあきらめることになっていたので、最低限の目標は達成できた。

6位は悔しい
女子五百㍍6位の永田希絵（帯南商1年）の話

あまり調子は良くないと思っていた

「タイムにも納得」周囲へ感謝忘れず
押切

○…昨年の全国中学大会で女子五百㍍を制した押切美沙紀（駒大苫小牧1年―中札内中出）が高校初の全国で3位と健闘し表彰台に上がった。押切は「タイムも納得できるものが出てすごくうれしい」と笑顔を輝かせた。

昨年5月に左ひざを故障し、今季の大会出場は11月から。試合勘がつかめず昨年いっぱいは思うような滑りができなかったが、年明けの全日本ジュニアで復調しスプリントで4位の好成績。好調さをそのまま今大会に持ち込んだ。

故郷を離れて約1年。「早く慣れるようにいろいろしてくれた先輩やコーチたちのおかげ」と周囲への感謝も忘れない。今大会の個人種目を終え、進級後を見据えて「いい先輩になれるように頑張りたい」と意欲を新たにしていた。

【女子五百㍍】総合3位に入賞した押切美沙紀（駒大苫小牧―中札内中出）

フィギュア
長谷川が決勝進出

（2位以下関係分）

【男子】◇予選＝①無良崇人（倉敷翠松）63・20

【女子】◇予選▽A組＝①鈴木真梨（東北）52・38⑩長谷川圓（白樺学園）36・80（20日・7位以下関係分）

【女子】◇1000㍍

日本高校記録
辻　麻希（白樺学園）1分17秒88

大会記録
辻　麻希（白樺学園）1分21秒33
①神谷衣理那（白樺学園）1分22秒52
②佐藤　絢香（駒大苫小牧）1・23・03
③門　奈津実（白樺学園）1・23・16
④土田　愛（駒大苫小牧―屈足中出）1・23・72
⑤永田　希絵（帯南商）1・24・38
⑥宮﨑　麻衣（嬬恋）1・24・87
⑧関口莉菜（帯南商）1・25・54⑫中村今日子（帯三条）1・27・78㉑佐藤志保（帯農）1・30・21

（19日・7位以下関係分）

【男子】◇500㍍（2回合計）
日本記録　加藤　条治（山形中央）34秒88
（2×500㍍）加藤　条治（山形中央）71秒81
大会記録　加藤　条治（山形中央）35秒46
（2×500㍍）羽賀　亮平（白樺学園）73秒91
①小林　拓斗（岡谷南）75秒45（②37秒71、①37秒74）
②黒岩　聖矢（前橋育英）75・56（①37・63、③37・93）
③中村　健斗（東海大三）75・70（③37・89、②37・81）
④中嶋　宣成（佐久長聖）75・95（④37・96、④37・99）
⑤大塚　樹（吉田）76・50（⑥38・15、⑥38・35）
⑥中村　駿佑（駒大苫小牧）76・57（⑤38・10、⑦38・47）
⑦池田大輝（白樺学園）76・70（⑦38・46、⑤38・24）⑨小室拓也（白樺学園）77・15（⑨38・48、⑩38・67）⑮村上右磨（帯工）78・00（⑫38・73、⑯39・27）⑩吉田昌平（池田）78・07（⑫38・73、⑱39・34）⑱佐々木信貴（帯南商）78・58（㉕39・59、⑮38・99）㉗永田龍次（帯三条）80・16（㉗39・84、㉗40・32）

◇5000㍍（カルテット）
日本記録　平子　裕基（白樺学園）6分31秒46
大会記録　宮崎今佐人（嬬恋）6分49秒98
①渡部　知也（池田）7分2秒78
②花岡　宏大（東海大三）7・4・01
③富岡　峻也（駒大苫小牧）7・4・12
＝以上大会新
④赤神　康亮（釧路北陽）7・6・53
⑤森永　一帆（山形中央）7・10・97
⑥竹田　翔平（駒大苫小牧）7・14・94
⑨中野誠（白樺学園）7・20・02㉖和田駿（池田）8・0・15㉝高木大輔（帯南商）8・10・56㊱高山繁人（帯農）8・20・59㊶小川新太（白樺学園）8・25・14

【女子】◇500㍍（2回合計）
日本記録　吉井小百合（東海大三）39秒12
（2×500㍍）吉井小百合（東海大三）79秒81
大会記録　大菅小百合（白樺学園）40秒39
（2×500㍍）神谷衣理那（白樺学園）82秒20
①神谷衣理那（白樺学園）81秒29（①40秒64、①40秒65）
②佐藤　絢香（駒大苫小牧）81・83（②40・81、②41・02）
③押切美沙紀（駒大苫小牧高―中札内中出）83・35（③41・42、⑤41・93）
④中口　雪絵（山梨学院大付）83・93（⑥42・02、④41・91）
⑤牛山　千種（東海大三）84・02（⑧42・16、③41・86）
⑥永田　希絵（帯南商）84・14（④41・90、⑥42・24）
⑨関口莉菜（帯南商）85・11（⑨42・32、⑨42・79）⑩中村今日子（帯三条）85・54（⑩42・71、⑩42・83）⑬箭内めぐみ（白樺学園）87・77（⑭43・75、⑬44・02）

かちまいスポーツ
記録の速報は▶kachimai.mobi
写真がほしい▶TEL0120-25-9410

夢はオリンピック！
―南町中学校　髙橋菜那選手

OCTV スポーツ応援団

放送予定　20日（火）―25日（日）

スピードスケートで今、注目を集めている帯広南町中学校3年、髙橋菜那選手＝写真。今シーズンもここまで3大会で優勝し2つの大会新をたたき出しています。今年は中学生最後の年、中学生になってからはまだ達成していない日本一を目指します。競技を続けいつかはオリンピックの舞台で最高の滑りをしたいという彼女のスピードスケートにかける熱い思いを紹介します。（長瀬雄太）